東京大学教養学部　主題科目　全学自由研究ゼミナール

こまとちゃんゼミナール

～ 駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル

2024年度Sセメスター 成果発表冊子

「こまとちゃんゼミナール」
2024年度Sセメスター 成果発表冊子

目 次

「こまとちゃんゼミナール」とは？ ／ 本冊子について　1

2024年度Sセメスター　授業プログラム　2

展示会場風景　3

甲子園　4

パリ五輪を見るために知っておきたいこと　11

学費問題と学園闘争　14

猫と眺める古代エジプト　17

「こまとちゃんゼミナール」とは？

「こまとちゃんゼミナール ～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル」は、教養学部生のホームライブラリーである駒場図書館を活用しながら、大学での学習、研究はもちろん社会に出てからも役に立つ情報の検索収集、そして活用の技術を身に付けるための授業です。駒場図書館、総合図書館、そして情報基盤課学術情報チーム等、多くの方々の協力のもとに実施されております。
学期の後半では情報活用・発信実習として、また図書館と学生の協働の試みとして、駒場図書館の展示スペースをお借りして、展示企画の制作を行っています。

参考URL
http://www.sr.komex.c.u-tokyo.ac.jp/courses/library/

本冊子について

本冊子は、2024年度Sセメスター授業の成果発表として、東京大学駒場図書館にて2024年7月11日から8月1日まで開催されたパネル展示の内容をまとめたものです。チーム毎にテーマを設定し、駒場図書館所蔵資料を中心に関連する資料を収集して、紹介文の執筆、展示パネルの作成を行いました。テーマは受講生の関心に沿って多岐にわたっています。駒場図書館の所蔵資料について知るのはもちろんのこと、図書館と学生の協働について考える機会となれば幸いです。

展示および冊子作成にあたり、書影等の使用については許可を得ています。また展示会の実施および準備には駒場図書館、総合図書館の皆様に多大なご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

担当教員　山上揚平

2024年度Sセメスター 授業プログラム

回・日程	内容
第1回（4/11）	ガイダンスと導入講義（オンライン）
第2回（4/18）	図書館の資料を知る
第3回（4/25）	図書・雑誌の探し方
第4回（5/2）	データベースの活用①（講義）
第5回（5/9）	データベースの活用②（実習）
第6回（5/16）	レファレンスサービスについて（講義・ワークショップ）
第7回（5/23）	資料の探し方（総括）
第8回（6/6）	駒場図書館バックヤードツアー
第9回（6/13）	情報活用・発信実習①（チーム決め、テーマ設定）
第10回（6/20）	情報活用・発信実習②（展示に向けた準備作業）
第11回（7/4）	情報活用・発信実習③（パネル制作）
第12回（7/11）	情報活用・発信実習④（最終プレゼンテーション／展示会場設営）
第13回（7/25）	本郷総合図書館ツアー

―展示会場風景―

こまとちゃん
ゼミナール
主旨について
「こまとちゃんゼミナール」とは？

ダンスの
歴史

テーマ
甲子園

学食問題と学園闘争

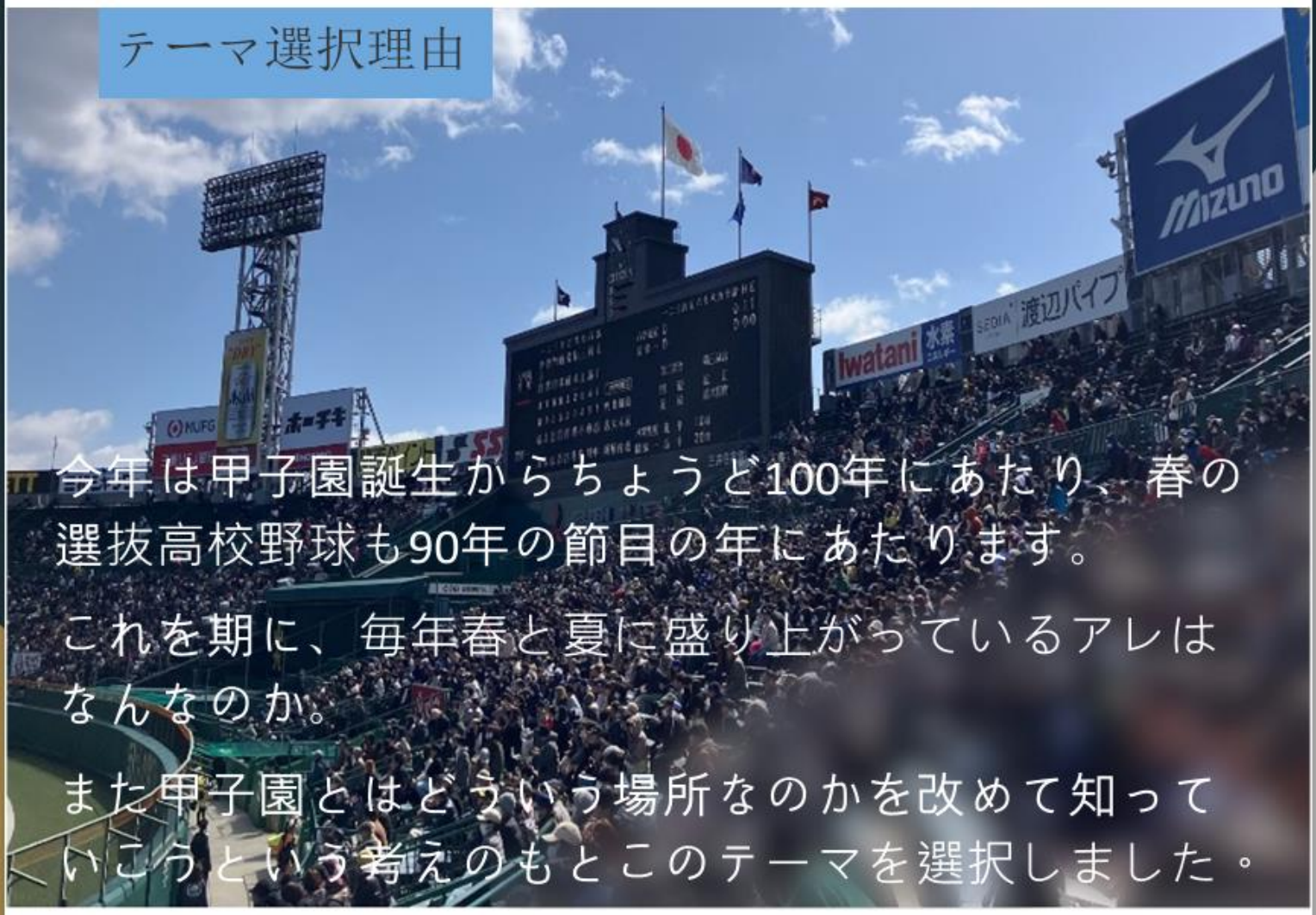
猫
古代エジプト
猫の博物館資料
エジプト神話を知りたい！
ネコ展

テーマ

甲子園

チーム首図圏 ver.2

岸本周・佐賀太一・高原稜生
谷島圭祐・若海翼



テーマ選択理由

今年は甲子園誕生からちょうど100年にあたり、春の選抜高校野球も90年の節目の年にあたります。

これを期に、毎年春と夏に盛り上がっているアレはなんなのか。

また甲子園とはどういう場所なのかを改めて知っていこうという考えのもとこのテーマを選択しました。

着衣する身体と女性の周縁化

思文閣出版
2012.4
武田 佐知子 著
ISBN : 4784216162

本書籍のまえがきで、編者の武田佐知子は、以下のように述べている。

「着衣は、言葉によるコミュニケーション以前に、視覚によって意味を伝達する媒体である。人類社会において、着衣するという行為は、他者に見せ、自己を相対化させながら、特定の社会への帰属、あるいはジェンダー、宗教、職能といった社会内部における特定のアイデンティティを象徴する意味を担い、同時にその社会の構造をさえ、映し出してきた。(p.8)」

甲子園、その100年間つづくその歴史に目を向けてみたとき、ただそこには「男」たちの物語のみが積み重なっていることに気付く。そこからは執拗に、「女」は除かれている。

「他者に見」られ、「自己を相対化させ」てしまう装置としての衣装として、本書では女子応援団員の、ミニスカートに注目する。いわゆる「パンチラ」をめぐって、外野からの応援しか「甲子園」に存在できない「女」という存在の、不安定さをていねいに語る。

文責：岸本周

高校野球の社会学

世界思想社

1994.8
江刺 正吾 編
小椋 博 編
ISBN : 4790705188

高校野球を社会学的な観点から解説した書籍。”文化”として甲子園の果たす役割や、単なるスポーツ大会を超えた、高校野球の持つ、「高校生らしさ」を観客に提供するエンタメとしての要素など、高校野球をコンテンツとして提供するメディアと、それを享受する観客を主体とした視点での解説が多く述べられている。

特に、マスコミと、それにより動かされる世論がもたらす、高校野球・甲子園に対する影響力について、複数の章にわたり言及されており、マスコミが高校球児へと正々堂々、高校生らしくプレーすることを求めるあまり、高校野球が半ばパフォーマンス(演技)と化してしまっていることについて、批判的に述べている。

もう一つ本書で特徴的な箇所は、高校野球と教育との関連について取り上げた五章である。

この章では、甲子園を取り巻く環境の中に、マスコミとの関係や、部員同士、上級生下級生の間での関係性など、「個人の力では超越できないもの」、「聖的なもの」が数多く登場し、それらによって高校野球がもつ、マニュアル教育的な側面についても解説している。

文責：佐賀太一

高校野球100年史

東京堂出版

2015.6
森岡 浩 著

ISBN : 449020907X

高校野球の起源から現在に至るまでの高校野球に関わる様々な出来事が豊富に記載されている。主要な試合の記録、過去に注目を集めた選手など具体的な内容も多い。

全国高等学校野球選手権大会には前身となる全国中等学校優勝野球大会という大会があり、1915年(大正4年)にその第一回が開催されている。その後学制改革に伴い旧制中学の名称が変更されたことにより1948年(昭和23年)に全国高等学校野球選手権大会という名称になった。

この本で取り上げられている具体的な出来事の例

・甲子園の土を持ち帰るようになったきっかけ
・甲子園史上最高の試合
・4アウト事件
・ワンバウンドホームラン
・松井5打席連続敬遠
・21世紀枠の課題
・投球過多による問題

文責：谷島佳祐

高校野球と日本人
ーメディアの作ったイベントー

吉川弘文館

1997.4

有山輝雄著

ISBN:4642054146

高校野球(春、夏の甲子園)の盛り上がりをメディアが作り上げたイベントであると定義し、その成り立ちを日本における野球の誕生から振り返り解説している書籍。野球の盛り上がり方、また野球選手に求められる姿と日本特有の武士道精神との共通点を見出し、アメリカ起源の"ベースボール"ではなく日本の「野球」という新しい視点から解説している。

この書籍の特徴は、高校野球という存在を全肯定的な見方ではなく、常にどこか批判の対象として捉えている点である。時にはメディアの時には国の思惑に左右され歪められてきた存在としてその歴史を振り返っているのである。

これまで言及されてこなかった高校野球の闇の側面を包み隠さず記しており、今までの高校野球を見る感覚に変化をもたらすような書籍となっている。他の本でもメディアとの関連性を述べられているが、日本の伝統文化との関わりを解いているのがこの本の重要な点であろう。

文責：高原稜生

甲子園野球のアルケオロジー: スポーツの「物語」・メディア・身体文化

新評論

1998.6

清水諭 著

ISBN : 4794804083

高校野球（春、夏の甲子園）の盛り上がりをメディアが作り上げたイベントとして定義し、その成り立ちを日本における野球の誕生から振り返り解説している書籍。野球が日本の文化に根付く過程を詳述し、特にNHKのテレビ中継などのメディア分析を通じて、甲子園野球がどのようにして国民的なイベントとなったのかを探ります。

この書籍の特徴的な点は、高校野球を全肯定的に捉えるのではなく、常に批判的な視点から分析している点です。メディアや国家の思惑に左右され、時に歪められてきた高校野球の歴史を、文化的・社会的な背景を交えながら冷静に振り返ります。

＜本書の概要＞

1. **甲子園の歴史**
   球場の誕生と成り立ち
2. **春の選抜高校野球大会**
   大会の始まりと重要な試合
3. **夏の全国高等学校野球選手権大会**
   名試合と名選手の物語
4. **メディアと甲子園**
   メディアの影響と文化的分析
5. **甲子園の文化的意義**
   高校野球が日本文化に与えた影響

文責：若海翼

パリ五輪を見るために
知っておきたいこと

チーム『スポーツ』
折川京祐、十河優芽、田中晴、山田清香、馬場知世

2024年パリ五輪の開催にちなみ、私たちは**パリ五輪を最大限楽しむために知っておきたいこと**を五つの観点からまとめました！！

『写真と地図でたどるパリ歴史散歩 古さと新しさが交錯する街パリを発見する18の旅』
(パスカル・ヴァジレカ著 蔵持不三也訳 ミュリエル・モンティニ写真 原書房 2022)

「花の都」として知られるパリは、文化や芸術が栄える世界屈指の観光地として有名です。
パリの有名な建造物や美術館を見て回ることは大変楽しいことでしょう。

しかし、今回は一風変わったパリ観光を紹介したいと思います。
本書は著者が自らの足で歩いた旧パリ市域内の18通りの散策ルートを、豊富な知識と写真と共に紹介した本です。
普段の観光では見向きもされないようなさりげない風景の細部に目を向け、一種の日常的な散策を提案してくれます。

古く瀟洒な「観光地としてのパリ」のみならず、新しく奇抜なパリ、様々な時代や様式、ジャンルが集まった超現実主義的なパリなど新たなパリの姿を見つけられるはずです。

文責： 折川京祐

『日本人のフランス体験　グルメのなかのパリ』（和田博文編　柏書房　2011）

～美食を語り尽くした、パリの紀行文～

「美食の国」として知られるフランス。

フランスの「ガストロノミー（美食術）」は、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。

趣向が凝らされたフランス料理の数々が、この本では紹介されています！

内容は全て、料理の作り方・食べ方です。

和食とはまた違う、食材の使い方、味付けなど、目から鱗のフランス体験ができます！

写真がない所は、「一体どんな料理なのだろう？？」とワクワク想像しながら
読んでみてください！

パリを訪れた時、あなたはどんな料理を味わいますか？
この一冊で、グルメの予習をしてみてはいかがでしょうか？

文責： 馬場知世

『タヒチ　謎の楽園の歴史と文化』（池田節夫著　彩流社　2005）

パリ五輪のサーフィンは**パリから1万5700kmも離れているタヒチ**で行われます！

なぜそのように遠いところがフランスの一部なのでしょうか？

その理由を上記の本をもとに歴史的観点から見ていきましょう。

ヨーロッパ文化の影響を強く受けていたタヒチは、フランスと外交問題を起こしてしまい、フランスとの戦争に敗れ**フランスの統治下**となりました。

多くの国が独立する第二次世界大戦後にタヒチでも独立運動が盛んになります。しかし、意外にもタヒチは選挙によって**フランス連邦にとどまる**ことになりました。

個人の所感としては、タヒチは歴史を通じて非常に親仏な国で、フランス政府との距離が近い印象を受けました。**だからこそ今回サーフィンの会場として選ばれた**のかもしれませんね。

文責：十河優芽

『パリとセーヌ川　橋と水辺の物語』（小倉孝誠著　中央公論新社　2008）

2024パリ五輪の開会式は**セーヌ川を中心**に開催される予定です。

スタジアム外での開会式は五輪史上初の試みであり、今回のパリ五輪の大きな特徴となっています。
フランスやパリに関する資料は世の中に数多く見られますが、今回紹介する小倉孝誠著**『パリとセーヌ川　橋と水辺の物語』**はパリ、なかでもセーヌ川に焦点を当てて当時の政治、経済、文化、娯楽、習俗などを知ることができる貴重な一冊となっています。
開会式当日は7月26日ということで、東大生の皆さんはテスト期間で現地参戦は難しいと思いますが、ぼーっとテレビで眺めるのではなくセーヌ川に関する歴史的知識があればより一層、開会式を楽しめるのではないでしょうか？

文責：山田清香

今年のパリ五輪から新種目「ブレイキン」が追加されます。
日本からはShigekix選手、AMI選手、AYUMI選手が出場するこの競技。2021年には国内リーグの「Dリーグ」が開幕するなど、国内での注目度も上がっています。

そんなブレイキン、ひいてはダンス競技について、
みなさんはどの程度ご存知でしょうか？

ダンスについてはサッパリという方にも、ダンスが大好きという方にもぜひお勧めしたいのが、この**『ダンスの歴史　宮廷ダンスからブレイキンまで』**（ロバート・ヒルトン著 高尾菜つこ訳 原書房 2023）。ダンスの長い歴史が豊富なカラー資料とともに紹介されており、一冊読むだけでダンスの知識が深まります。この本を通してダンスについての背景知識を持っていると、オリンピックでも一味違った観戦を楽しめるかもしれません。

文責：田中晴

学費問題と学園闘争

チームMacBook Air　荒川・佐々木・津畑・山本・和崎

　2024年6月24日、東大が学費値上げを検討しているという報道がありました。大学内外でこのことに対して賛否両論があり、様々な抗議活動が行われています。そして今年2024年は学園闘争の大きな節目となった安田講堂封鎖解除から55年の節目の年でもあります。
　今こそ私たちは学費値上げの是非を考え、どのようにして大学に私たちの意見を伝えるか検討する必要があるのではないでしょうか。今回の展示では、学費に関する本と学園闘争に関する本を紹介しています。ネットの情報だけではなく、紙の本を読んで学費問題を考えてみませんか。

（津畑）

早稲田をゆるがした一五〇日

早大闘争の記録編集委員会 (Ed.). (1966).『早稲田をゆるがした150日』. 現代書房.

　1965年末に早稲田大学で学費の値上げが発表され、1966年1月18日からストライキが始まった。このストライキは連日3000から6000人ほどの学生がバリケードを築き建物の入り口を封鎖したが、期末テストや入学試験の時期と重なり、警察の機動部隊が出動するなど大学側との攻防戦が展開された。一度2月に落ち着きをみせたが、4月にストライキが再び起こり、最終的な終結は6月末に訪れた。
　第一部では早稲田大学闘争で起こった出来事を主にストライキを起こした学生の側から時系列順にまとめている。また、第二部では学生の当事者の意見を様々な学生の立場から記述され、第三部・第四部にかけて総括がなされている。
　ドキュメンタリー形式で記述されており、とても興味深い内容となっている。現在学費の値上げ問題が話題になっているが、同じく学費値上げによりストライキが起こった早稲田大学の闘争の歴史についてこの機会に知っておくのはいかがだろうか。（佐々木）

日本の大学革命１　全国学園闘争の記録Ⅰ

日本評論社編集部(Ed.). (1969).『日本の大学革命１　全国学園闘争の記録Ⅰ』. 日本評論社.

「日本の大学革命」は全6巻であり、1～3巻は1968年初めから1969年にかけて全国の大学で起こった闘争の記録、4～6巻は全共闘の各組織や指導者が発行した理論的文書やその編集である。
今回紹介する1巻目では、東京教育大学・筑波研究学園都市解体の闘争、九州大学・米軍機墜落事件、そして関西学院大学・学費値上反対闘争が取り上げられている。関西学院大学の事例は、昨今の問題と重なる部分があるのではないだろうか。事例ごとに概要と闘争日誌、そして当時の雑誌記事等の文献資料が豊富に掲載されているため、読者は臨場感を持って各闘争の内実を知ることができるだろう。昭和44年に発行された比較的古い書籍であるが、闘争発生と時期を同じくして書かれているため、リアリティのある内容になっている。（和﨑）

国立大学システム　機能と財政

島　一則. (2022).『国立大学システム　機能と財政』. 東信堂.ISBN：978-4-7989-1570-8

この本では国立大学の現在の財政について、データが多く示されている。
国立大学は国からの運営交付金によって運営が行われているのは周知の事実である。実際、学部入学者としては15.7%(2019)の割合である国立大学であるが、運営への交付金として1兆971億円(2018)が投入されており、これは同年の私立大学への補助金の約3.5倍である。
しかし近年、運営費交付金の額は減少の傾向にある。その一方で、国立大学全体の収入は増加の傾向にある(H17~H22)。この理由は附属病院の収入増加がほとんどである。大学別の収入増減表を見ると、医学部を持たない大学の収入が減少していることが見て取れる。ただし、病院収入とは、第一義的には病院の収入であるから、これが完全に学内再分布されるとは限らない。また、競争的資金収入と呼ばれる、科学研究費補助金についてもその収入は学内全体ではなく、その補助金を入手した研究室など一部に分配される。したがって学内全体で分配される資金は、運営交付金と授業料収入などしかなく、運営交付金の減少が続いている現状、その国立大学が黒字であっても授業料増額を大学が判断する可能性はあるだろう。(山本)

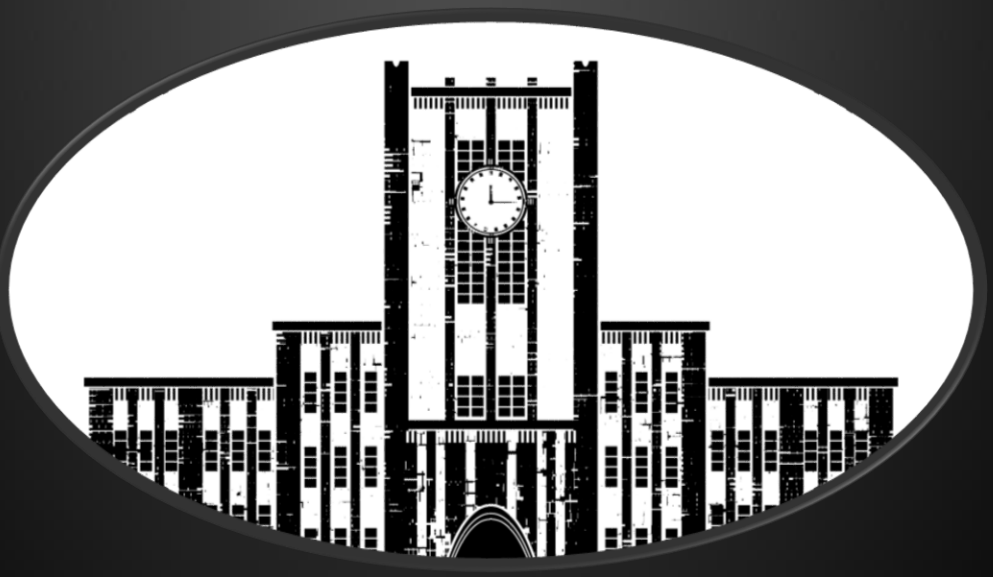
大学とマネー

島一則 (Ed.). (2011).『大学とマネー』.
玉川大学出版部. ISBN : 9784472404177

本書は「大学とマネー」という題の通り、大学に関係するお金の話を、家計から社会まで幅広く扱い、トピックごとに複数の著者が論文、論考を載せ、編集者が解説を行なっている。以下、トピックごとの興味深い議論をいくつか紹介する。

まず、家計については、教育を投資とみたときに、親から子に学歴を与えることに税がかからないことを問題視している。次に、財政については、大学に対する政府支出の規模、水準を紹介し、GNP比で海外より水準が低いことや、大学間の配分に偏りがあることを紹介している。財務については、文系学部で単位教育コストが授業料を下回るという推計を行い、国立大学を通じた所得の逆配分は起こっていないとする先行分析を示し、真に吟味するべきは研究コストの部分だと主張している。最後に、経済効果については、教育機関の質と学生のパフォーマンスの関係を調べている。

最近東大を騒がせている授業料問題だが、背景事情を知ると当事者意識を持てるかもしれない。本書はその手助けとなること請け合いなのでぜひ手に取ってみてほしい。　（荒川）



猫と眺める古代エジプト

2024 S こまとちゃんゼミナール　CiNyaa Research

加藤 麟　矢野 秀雄　清水 美冴　守時 諒　杉山 莉世

いまは空前の猫ブーム。家の中、街中、SNS、いたるところに猫がいます。そんなイエネコの起源が古代エジプトにあることを知っていますか？猫が人と暮らし始めたのは古代エジプトからだといわれています。

駒場図書館をはじめとする東大図書館所蔵の資料を参考に、古代エジプトの歴史や文化を猫という観点から探ってみましょう。

（矢野）

猫の博物館資料

猫にまつわる展示企画

猫が多くの人々に愛され、猫ブームが起こっているなかで、複数の博物館で猫に関わる展示企画が行われています。ここではその一例を紹介したいと思います。

皆さんは図書館でレポートや発表に使う書籍や論文雑誌を借りることが多いかもしれませんが、大学図書館に所蔵されている資料には他にもさまざまな種類があり、美術館や博物館のパンフレットもその一つです。

港区立郷土歴史館「Life with ネコ展」

水色の資料は、2022年7月16日から9月11日まで港区立郷土歴史館にて開催された特別展「Life with ネコ 展」の展示図録です。日本人と猫の関わりの歴史について絵巻や文献の写真も交えて説明されています。古代エジプトの人々に愛され、イエネコの祖先になったリビアヤマネコも紹介されています。

山梨県立博物館「すごすぎる！ねこ展」

ピンク色の資料は、2019年7月13日から9月2日まで山梨県立博物館にて開催された企画展「すごすぎる！ねこ展 ～ヒトとネコの出会いと共存の歴史～」の展示図録です。

第Ｉ章では、猫が日本に伝来するまでの歴史的変遷が紹介されています。東京国立博物館に所蔵されているバステト女神像や、エジプト出土の猫のミイラも写真付きで掲載されています。

（杉山）

エジプト神話を知りたい!

古代エジプト神話は色々なところに

映画の題材やゲームのキャラクターには、エジプト神話が元になっているものが数多く存在しますね。「ラー」「アヌビス」などの神様の名前は耳に馴染みがあると思います。エジプト神話の神々は動物をモチーフにしていることが多いですが、見た目からそれもご存じの方も多いでしょう。

では、その神様が何を象徴するのか、なぜその動物なのか、分かりますか？

エジプト神話に詳しくなろう

エジプト神話への理解が深まれば、エジプト神話から引用されたキャラクターはもちろん、言葉を解する動物や魔法などといったエジプト神話を起源とする物語のモチーフも、今まで以上に楽しむことができます。

そのイメージを掴むためにおすすめしたいのが、**『神々と人間のエジプト神話』（大城道則著）**です。この本では、神話の具体的なストーリーを題材として、古代エジプトにおける神話とは何か、そしてそこから見える古代エジプト人の社会についてを考えます。

でも、ちょっと敷居が高いかも…

いいえ、そんなことはありません。

それぞれの物語の構成は、魔法の書を探し求めたり、あるいは強欲な役人と対立したりと、現在でも見られるものばかりです。その中で神様や人間、そして動物が関わり合い、そこに当時のエジプト人の世界が見えてくるというわけです。

多種多様な神々の入り混じる古代エジプトの宗教観に、一歩足を踏み入れてみてはどうでしょうか。（加藤）

（加藤）

エジプト神話と猫

古代エジプトの猫神バステト

私たちがテーマに選んだ猫も、もちろんエジプト神話に登場します。もっとも有名な猫の神といえば「バステト」ですが、聞いたことがある人も多いのではないでしょうか。猫の姿もしくは猫の頭部をもつ人間の姿とされています。

女神バステトは、当時の人々に家族と家の守護神として非常に愛されていたそうです。その証拠として、彼女に捧げるため多くの猫が生贄とされたことや、大量の銅像が作られたことがわかっています。

ルーブル美術館やブリティッシュミュージアムなどにもバステトの銅像が所蔵されています。

猫と人々の暮らし

エジプトではヤマネコが人々に大事に世話をされたことで、家畜化された猫が出現したと言われています。そしてこれが現在まで続くペットとしての猫のはじまりとされています。

（『ネコの宗教：動物崇拝の原像』（ニコラス・ソーンダズ著））

古代エジプトの作品を見ると、猫がいかに愛されていたがわかります。

例えばヘロドトスの『歴史』には、「火事が起こった時にエジプト人は消火に精を出さずに、飼い猫が火の中に飛び込まないように監視している」と書かれています。

また大量の猫のミイラを葬った墓地も発見されているそうです。

エジプト神話物語百科［ヴィジュアル版］

猫以外にも、古代エジプトには様々な動物の神たちが登場します。

それらの特徴や当時の出来事との関連を豊富なカラー写真と共に読み解いていくことができるのが、**『エジプト神話物語百科［ヴィジュアル版］』（キャサリン・チェンバーズ著）**です。

古代エジプトと動物の関わりについて興味を持った方はぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか。

（清水、杉山）

（清水、杉山）

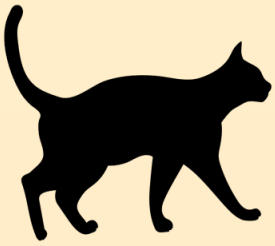
歴史と猫

猫好きが祟った悲劇

紀元前５２５年に起きたアケメネス朝ペルシャ－第２６王朝エジプト間のペルシウムの戦いの中にも猫が登場します。元々宗教文化的に愛猫家の多かったエジプトの文化を知っていたペルシャ軍は、猫好きには思いもつきもしない方法で楽々と勝利を手にしました。ペルシャ軍は盾に猫をくくりつけた状態で進軍してきたのです。この奇策にエジプト軍は抵抗もできず敗退し、第２６王朝エジプトはアケメネス朝ペルシャに征服されました。

この敗北が古代エジプト滅亡の始まりだったとも言われています。

『古代オリエント全史』（小林登志子著）や、**『歴史』（ヘロドトス著）**にはこの頃の古代オリエント諸国の変遷が記されています。



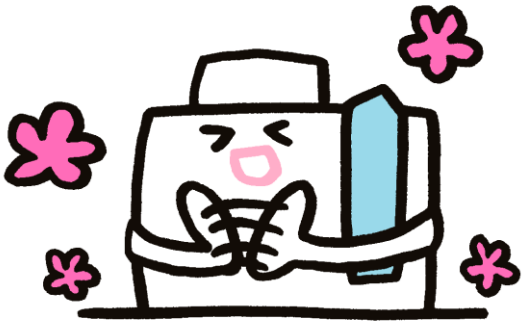
猫との関係性から見た
古代エジプトの姿はいかがでしたか？

駒場図書館には様々なジャンルの本が幅広く所蔵されています。たくさん活用して学生生活をより充実させましょう！

（守時）

参考文献一覧

- サラ・ブラウン著『猫の博物図鑑』角敦子訳、原書房、2020.11
- 港区立郷土歴史館編『Life with ネコ展』、港区教育委員会、2022.7
- 山梨県立博物館編『すごすぎる！ねこ展』、山梨県立博物館、2019.7
- 大城道則著『神々と人間のエジプト神話：魔法・冒険・復讐の物語』、吉川弘文館、2021.2
- キャサリン・チェンバーズ著『エジプト神話物語百科：ヴィジュアル版 』田口未和訳、原書房、2023.8
- ニコラス・ソーンダズ著『ネコの宗教：動物崇拝の原像』渡辺政隆訳、平凡社、1992.5
- 小林登志子著『古代オリエント全史：エジプト、メソポタミアからペルシアまで4000年の興亡』、2022.11
- ヘロドトス著『歴史』松平千秋訳、岩波文庫、2007.4



駒場図書館公式キャラクター
「こまとちゃん」

こまとちゃんイラスト　　東京大学駒場図書館
図書書影　　“版元ドットコム” https://www.hanmoto.com/

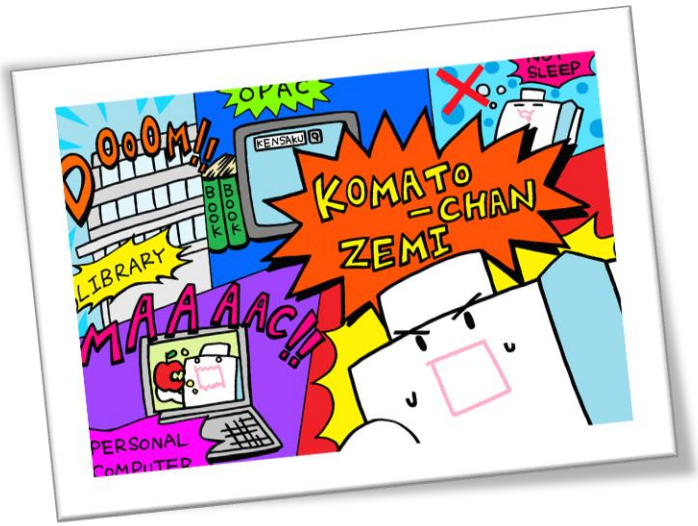
東京大学教養学部　主題科目　全学自由研究ゼミナール
こまとちゃんゼミナール
～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル
2024年度Sセメスター 成果発表冊子（電子版）

著者　岸本 周、佐賀 太一、高原 稜生、谷島 圭祐、若海 翼、折川 京祐、十河 優芽、田中 晴、山田 清香、馬場 知世、荒川 真輝志、佐々木 駿悟、津畑 政英、山本 健雄、和﨑 友花、加藤 麟、矢野 秀雄、清水 美冴、守時 諒、杉山 莉世

編者　山上揚平

発行日　2024年8月26日
発行　東京大学教養学部　主題科目　全学自由研究ゼミナール「こまとちゃんゼミナール」

発行所　〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 101号館12室
東京大学教養学部附属教養教育高度化機構社会連携部門
TEL 03-5465-8820　FAX 03-5465-8821


DOOM!!
OPAC
KENSAKU
BOOK
BOOK
LIBRARY
MAAAAC!!
PERSONAL
SLEEP
KOMATO
-CHAN
ZEMI